

《専門科目 教育の基礎的理解に関する科目》

科目名	教育実習指導				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる力について学ぶ。教育実習（観察・参加実習）の目的、内容・方法を理解すると共に、幼稚園の機能、役割等を知る。各自が実習課題を明確にするとともに、実習に必要な知識、態度・技術を理解し学習する。実習のねらい達成のため、グループワークによるディスカッションを行う。

《授業の到達目標》

[事前指導] 教育実習（観察・参加実習）の目的と概要を理解し説明することができる。実習に必要な知識、態度、技術を理解し、準備することができる。教育実習における自己課題を明確にし、表現することができる。
[事後指導] 実習の振り返りを通して、客観的な自己評価ができると共に、自己課題を理解し今後の実習に向けた改善方法について表現することができる。

《成績評価の方法》

提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規2020 小櫃智子他「実習日誌・実習指導案バリエーション」わかば社2015 「実習の手引き」保育用語辞典

《参考図書》

○幼稚園教育要領および同解説
○幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006

《授業時間外学習》

実習の手引きを常に熟読し活用すること 実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日時に遅れることがないようにすること。実習用エプロン、名札の作成及び実習で必要とする文書の作成等 本科目では29時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

提出物等は内容を確認した上で受領、返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報をフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導：教育実習の意義	教育実習の意義と実施要件～本学内規より [事前学習] 幼稚園教育要領を読み、分からない用語はテキストで調べる
2	事前指導：実習先提出書類の作成	実習生調書の作成、オリエンテーション・実習に向けた手続き\実習前試験について [事前学習] テキスト 「実習に行くにあたっての心構え・準備」を読む
3	事前指導：観察・参加実習の実際	幼稚園の1日の流れと実習生の1日 [事前学習] 実習園の保育方針や1日の流れを調べる
4	事前指導：実習の準備と心構え	実習前試験\実習のテーマ設定 [事前学習] 試験に向けて準備する。
5	事前指導：実習日誌の書き方	実習日誌の書き方・記録の取り方、保育用語と望ましい表現 [事前学習] テキスト のpp.80 91を読む
6	事前指導：実習中、実習後の手続き	マナー・部分実習\実習中のQ&A 実習後の手続き [事前学習] テキスト 「実習前の手続きから実習終了について」を読む
7	-	-
8	-	本科目は通年8回開講科目である。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門科目 教育の基礎的理解に関する科目》

科目名	教育実習指導				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる力について学ぶ。教育実習（観察・参加実習）の目的、内容ならび施設の機能、役割等を理解し、実習課題を明確化するとともに、実習に必要な知識、態度・技術を理解し学習する。実習のねらい達成のため、グループワークによるディスカッションを行う。

《授業の到達目標》

[事前指導] 教育実習（観察・参加実習）の目的と概要を理解し、説明することができる。実習に必要な知識、態度、技術を理解し、準備することができる。教育実習における自己課題を明確にし、表現することができる。

[事後指導] 実習の振り返りを通して、客観的な自己評価ができると共に、自己課題を理解し、今後の実習に向けた改善方法について表現することができる。

《成績評価の方法》

提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規2020 小櫃智子他「実習日誌・実習指導案B-フェクト」わかば社2015 「実習の手引き」保育用語辞典

《参考図書》

- 幼稚園教育要領および同解説
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
- 無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
- 植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006

《授業時間外学習》

実習の手引きを常に熟読し活用すること 実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日時に遅れることがないようにすること。実習用エプロン、名札の作成及び実習で必要とする文書の作成等 本科目では29時間の時間外学習が必要で。

《課題に対するフィードバック等》

提出物等は内容を確認した上で受領、返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報をフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事後指導：振り返り	実習の振り返り（子どもから学んだこと・保育者から学んだこと） [事前学習] 実習日誌を読み学びを振り返る
2	事後指導：実習報告会	2年生からの体験談と今後に向けて（グループディスカッション） [事前学習] 実習報告会のパンフレットを読み、質問を考える
3	-	-
4	-	本科目は通年8回開講科目である。
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門科目》

科目名	保育実習指導（保育所）				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

「保育実習」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。

「保育実習」の意義・目的・内容の理解

「保育実習」を円滑に進めるための知識・技術を習得と事前準備についての学習

実習後の学びの振り返りと学習課題の明確化

また、グループワークや簡単な制作活動も行う。

《授業の到達目標》

「保育実習」の意義・目的・内容について説明することができる。

創造的表現力、問題解決能力等、保育士として乳幼児と関わる上で必要な技能を身に付ける。

子どもやその家族を支援する専門職の責務について説明することができる。

《成績評価の方法》

授業ごとの提出課題・小テスト70%、最終レポート30%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』2017,わかば社、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2015,わかば社

《参考図書》

汐見稔幸『保育所保育指針ハンドブック2017年告示版』学研,2017

汐見稔幸『平成29年度保育所保育指針まるわかりガイド』チャイルド本社,2017

岸井慶子監修『3つのカベをのりこえる！保育実習リアルガイド』学研

《授業時間外学習》

保育実習にかかわる活動(模擬保育、絵本の読み聞かせ、手遊び等の練習)を自己学習の中で行う。

また、教材研究、指導案の作成を行う。

本科目は自己学習として15時間以上を要する。

《課題に対するフィードバック等》

グループワークへの支援・発言へのコメントや提出課題の振り返りを通して、実習に臨む姿勢や様々な知識・技術の獲得を支援する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の概要 保育実習の目的	保育実習指導授業の進め方の確認、保育実習（保育所）概要、目的、目標について学習（ワークシート）[時間外学習]実習の意義についてテキストを参考に予習しておく。
2	学外演習に向けての心構え・演習目標の設定	保育士の心構え・実習生として学ぶ姿勢について学習、学外演習の目標設定（ワークシート）[時間外学習]子どもとのかかわり方についてテキストを参考に予習しておく。
3	学外演習	学外において保育の演習を実施する。[時間外学習]演習に必要な保育技能の準備(自己紹介、手遊び、絵本の読み聞かせ、ピアノ等)を事前に重ねておく。
4		
5		本科目は通年15回開講科目である。
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	保育実習指導（保育所）				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

「保育実習」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。

「保育実習」の意義・目的・内容の理解
「保育実習」を円滑に進めるための知識・技術を習得と事前準備についての学習

実習後の学びの振り返りと学習課題の明確化
また、グループワークや簡単な制作活動も行う。

《授業の到達目標》

「保育実習」の意義・目的・内容について説明することができる。

創造的表現力、問題解決能力等、保育士として乳幼児と関わる上で必要な技能を身に付ける。

子どもやその家族を支援する専門職の責務について説明することができる。

《成績評価の方法》

授業ごとの提出課題・小テスト70%、最終レポート30%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』2017,わかば社、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2015,わかば社

《参考図書》

汐見稔幸『保育所保育指針ハンドブック2017年告示版』学研,2017
汐見稔幸『平成29年度保育所保育指針まるわかりガイド』チャイルド本社,2017
岸井慶子監修『3つのカベをのりこえる！保育実習リアルガイド』学研

《授業時間外学習》

授業内容の予習・復習のほか、保育実習にかかわる活動(読み聞かせや手遊びの練習)を自己学習の中で行う。
また、教材研究、指導案の作成を行う。
本科目は自己学習として15時間以上を要する。

《課題に対するフィードバック等》

グループワークへの支援・発言へのコメントや提出課題の振り返りを通して、実習に臨む姿勢や様々な知識・技術の獲得を支援する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学外演習の振り返り	学外演習振り返りとエピソード共有、保育実習に対する課題の明確化(ディスカッション、ワークシート) [時間外学習] 学外演習記録を見直し自らの気づきを整理する。
2	保育所保育指針について環境構成について	背景と趣旨、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)、保育所の1日の流れについての学習 [時間外学習] 保育所保育指針の内容を予習しておく。
3	日誌の記録・指導案について	時間・環境構成・子どもの活動・保育者の援助についての学習(ワークシート) [時間外学習] 実習園の概要についての調査(ワークシート)
4	0歳児の発達と援助	一対一関係の大切さ、安心・安全・愛情・環境構成についての学習(ワークシート) [時間外学習] ワークシートの環境構成図を完成させる。
5	1歳児の発達と援助	遊びの発見や他者とのかかわりを求める時期のかかわりについての学習(グループワーク) [時間外学習] 主活動の考え方について学習内容を復習する。
6	2歳児の発達と援助	自我の芽生えの時期における保育者のかかわりについての学習(ディスカッション) [時間外学習] かかわりに応じた環境構成について学習内容を復習し考えを深める。
7	3歳児以上の発達と援助	他者との関わりの広がり和社会性の構築時期についての学習(ワークシート) [時間外学習] 学習内容をもとに指導案の立案を行う。
8	部分実習指導案の書き方	子どもの発達に沿った指導案の書き方(ワークシート) [時間外学習] 子どもの発達や一人ひとりの興味関心に合わせた指導案作成
9	日誌の書き方(時系列記録について)	時系列を中心とした記録の方法についての学習と保育事例に対する観察の視点に対する議論(ディスカッション) [時間外学習] ディスカッション内容を見直し考えを深める。
10	日誌の書き方(エピソード記録・考察について)	エピソードを中心とした記録の方法についての学習と保育事例に対する考察の深め方(ディスカッション) [時間外学習] ディスカッションの内容を見直し考えを深める。
11	実習直前指導(提出物見直し・緊急連絡等確認)	細菌検査についての学習、お礼状の書き方等、実習後の提出物についての確認(ワークシート) [時間外学習] 実習目標や課題についての内容を見直し考えを深める。
12	事後指導(今後の実習課題の明確化)	保育実習の振り返り、本授業のまとめと今後の実習課題の明確化 [時間外学習] 実習日誌を振り返り、気づきや考察を深める。
13		
14		本科目は通年15回科目である。
15		

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	中平 浩介				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、明確にする。 ＜準備学習＞大学の授業のイメージを発表できるようにする。
2	SDGs について	SDGs の「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する。 ＜準備学習＞SDGs について自分なりに調べておく。
3	SDGs について	上記の課題や問題点について現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめする。 ＜準備学習＞SDGs の取組の背景について説明できるようにする。
4	SDGs について	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 ＜準備学習＞大学ホームページで本学のSDGs の取組を知る。
5	ゼミの内容理解	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。 ＜準備学習＞卒業研究発表会のポスター資料を見ておく。
6	ゼミの内容理解	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 ＜準備学習＞ゼミインタビューの結果を整理し発表の準備をする。
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。 ＜準備学習＞「著作権」について調べ、卒業研究との関連を考える。
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。 ＜事前学習＞大学図書館で、卒業研究論文抄録のある書架の場所を確認しておく。
9	個人研究課題の検討	過去の論文抄録について調査し、「情報リテラシーゼミ」の研究課題について知る。 ＜準備学習＞「情報リテラシー」という学問の研究領域に含まれる事柄について調べる。
10	個人研究課題の検討	SDGs の目標との関係に留意し、取り組んでみたい研究課題を複数検討する。 ＜準備学習＞SDGs についての学びの内容を、特に17種類の目標中心に振り返っておく。
11	研究グループの検討	個人研究課題を元に、相互の関連を考察し、研究グループを構成し、グループ研究課題を検討する。 ＜準備学習＞同じゼミ内の個人研究テーマを互いに情報共有しておく。
12	研究グループの設定	グループ研究課題に基づき、研究グループを設定して研究の進め方について話し合う。 ＜準備学習＞「情報リテラシー」、SDGsの17の目標について振り返っておく。
13	調査・研究	文献・資料の検索 ＜準備学習＞「CiNii」について、その内容や活用の仕方について調べておく。
14	調査・研究	文献・資料の検索 ＜準備学習＞自分の研究テーマに関する情報をできるだけ多く収集する。
15	調査・研究	前次で収集した情報に基づいて発表のできるスライドを作成する。 ＜準備学習＞自分の研究テーマに関して収集した情報を整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

前半（第1～7次）は全研究領域共通で、卒業研究論文の執筆に関する基礎的な知識を学ぶ。後半（第8～15次）は、表現の基本的技能を修得するための練習に取り組む。最終的には、他者と協働して表現発表会の作品に取り組み、表現技術を身につける。

《授業の到達目標》

表現に関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。イメージを豊にして、自らの発想を様々な方法を用いて表現することができる。本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような表現法を修得し、実践できる。担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。TEAMSの動画を活用して自らのパフォーマンスについて振り返り、総合表現の質向上を目標として自主練習を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校と大学の学びの違い、大学の学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。〔準備学習〕高校と大学の授業の違いを整理する（復習1時間）
2	SDGsについて（1）	SDGsの「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する。〔準備学習〕HP等でSDGs関連の記事調査（予習・復習1時間）
3	SDGsについて（2）	上記の課題や問題点の現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、プロダクトを作成する。〔準備学習〕プロダクトに関する予備情報の調査（予習1時間）
4	SDGsについて（3）	前次に作成したプロダクトについて発表する（質疑・応答を含む）。〔準備学習〕各グループの発表内容についてまとめる（復習1時間）
5	ゼミの内容理解（1）	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。〔準備学習〕調査する研究領域や質問事項をまとめる（予習1時間）
6	ゼミの内容理解（2）	前次に作成したプロダクトについて発表する（質疑・応答を含む）。〔準備学習〕各グループの発表内容についてまとめる（復習1時間）
7	研究倫理について	卒業研究論文作成における研究倫理の重要性に学ぶ。〔準備学習〕HP等で研究倫理に関する記事を調査する（予習・復習1時間）
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。〔準備学習〕図書館等で卒業研究論文関連の記事を調査（予習・復習1時間）
9	基礎練習（初級）	表現領域に関する基礎レッスン（初級）〔準備学習〕本次で練習した表現技法について反復練習をする（予習・復習1時間）
10	基礎練習（応用）	表現領域に関する基礎レッスン（応用）〔準備学習〕本次で練習した表現技法について反復練習をする（予習・復習1時間）
11	合同基礎練習（即興的試作）	第9・10回の学習内容を踏まえ、即興的な表現を試作する。〔準備学習〕表現するテーマの試案、使用する用具など準備する（予習1時間）
12	合同基礎練習（創作）	表現しようとするテーマについて、作品として仕上げる。〔準備学習〕作品練習（予習1時間）
13	作品小発表会のリハーサル（準備・全体構成）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
14	小発表会のためのリハーサル（プレ本番）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
15	作品小発表会	前期学習内容のまとめとして、ゼミ内で小発表会を行う。〔準備学習〕前期授業の総括、自他のパフォーマンスを振り返り、課題などレポートにまとめる（復習1時間）。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

表現に関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。イメージを豊にして、自らの発想を様々な方法を用いて表現することができる。本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような表現法を修得し、実践できる。担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。TEAMSの動画を活用して自らのパフォーマンスについて振り返り、総合表現の質向上を目標として自主練習を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。〔授業時間外学習〕授業の違いを整理する(復習1時間)
2	SDGsについて(1)	SDGsの「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出。〔授業時間外学習〕SDGsに関する記事を調査する(予習・復習1時間)
3	SDGsについて(2)	課題や問題点について調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、プロダクトを作成。〔授業時間外学習〕プロダクトに関する予備情報を調査する(予習1時間)
4	SDGsについて(3)	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。〔授業時間外学習〕各グループの発表内容についてまとめる(復習1時間)
5	ゼミの内容理解(1)	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。〔授業時間外学習〕調査する研究領域や質問事項をまとめる(予習1時間)
6	ゼミの内容理解(2)	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。〔授業時間外学習〕各グループの発表内容についてまとめる(復習1時間)
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。〔授業時間外学習〕HP等で研究倫理に関する記事を調査する(予習・復習1時間)
8	研究テーマの展望	選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。〔授業時間外学習〕図書館等で卒業研究論文に関する記事を調査(予習・復習1時間)
9	基礎練習(初級)	表現領域に関する基礎レッスン(初級)〔授業時間外学習〕本次で練習した表現技法について反復練習をする(予習・復習1時間)
10	基礎練習(応用)	表現領域に関する基礎レッスン(応用)〔授業時間外学習〕本次で練習した表現技法について反復練習をする(予習・復習1時間)
11	合同基礎練習(即興的試作)	第9・10回の学習内容を踏まえ、即興的な表現を試作する。〔授業時間外学習〕表現するテーマの試案、使用する用具など準備する(予習1時間)
12	合同基礎練習(創作)	表現しようとするテーマについて、作品として仕上げる。〔授業時間外学習〕作品練習(予習1時間)
13	作品小発表会のリハーサル準備・全体構成の確認	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
14	小発表会のためのリハーサル(プレ本番)	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
15	作品小発表会	学習内容のまとめとして、ゼミ内で小発表会を行う。〔授業時間外学習〕前期授業の総括、自他のパフォーマンスを振り返り、課題などレポートにまとめる(復習1時間)

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、明確にする。 ＜準備学習＞大学の授業のイメージを発表できるようにする。
2	SDGs について	SDGs の「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する。 ＜準備学習＞SDGs について自分なりに調べておく。
3	SDGs について	上記の課題や問題点について現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめする。 ＜準備学習＞SDGs の取組の背景について説明できるようにする。
4	SDGs について	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 ＜準備学習＞大学ホームページで本学のSDGs の取組を知る。
5	ゼミの内容理解	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。 ＜準備学習＞卒業研究発表会のポスター資料を見ておく。
6	ゼミの内容理解	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 ＜準備学習＞ゼミインタビューの結果を整理し発表の準備をする。
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。 ＜準備学習＞「著作権」について調べ、卒業研究との関連を考える。
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。 ＜事前学習＞大学図書館で、卒業研究論文抄録のある書架の場所を確認しておく。
9	個人研究課題の検討	過去の論文抄録について調査し、「教育学ゼミ」の研究課題について知る。 ＜準備学習＞「教育学」という学問の研究領域に含まれる事柄について調べる。
10	個人研究課題の検討	SDGs の目標との関係に留意し、取り組んでみたい研究課題を複数検討する。 ＜準備学習＞SDGs についての学びの内容を、特に17種類の目標中心に振り返っておく。
11	研究グループの検討	個人研究課題を元に、相互の関連を考察し、研究グループを構成し、グループ研究課題を検討する。 ＜準備学習＞同じゼミ内の個人研究テーマを互いに情報共有しておく。
12	研究グループの設定	グループ研究課題に基づき、研究グループを設定して研究の進め方について話し合う。 ＜準備学習＞「教育学」の研究療育、SDGsの17の目標について振り返っておく。
13	調査・研究	文献・資料の検索 ＜準備学習＞「CiNii」について、その内容や活用の仕方について調べておく。
14	調査・研究	文献・資料の検索 ＜準備学習＞自分の研究テーマに関する情報をできるだけ多く収集する。
15	調査・研究	2年生の「教育学ゼミ」の取組を見学し、研究資料収集のヒントを掴む。 ＜準備学習＞自分の研究テーマに関して収集した情報を整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	武内 道郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。
 共同学習の重要性について説明できる。
 「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。
 SDGsの内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。
 卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
 2018年
 石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
 本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実にを行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、明確にする。 ＜準備学習＞大学の授業のイメージを発表できるようにする。
2	SDGs について	SDGs の「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する。 ＜準備学習＞SDGs について自分なりに調べておく。
3	SDGs について	上記の課題や問題点について現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめする。 ＜準備学習＞SDGs の取組の背景について説明できるようにする。
4	SDGs について	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 ＜準備額数＞大学ホームページで本学のSDGs の取組を知る。
5	ゼミの内容理解	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。 ＜準備学習＞卒業研究発表会のポスター資料を見ておく。
6	ゼミの内容理解	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 ＜準備学習＞ゼミインタビューの結果を整理し発表の準備をする。
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。 ＜準備学習＞「著作権」について調べ、卒業研究との関連を考える。
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。 ＜事前学習＞大学図書館で、卒業研究論文抄録のある書架の場所を確認しておく。
9	個人研究課題の検討	「幼児教育ゼミ」の研究テーマについて知り、研究の方向性を検討する。 ＜準備学習＞「日本人の良さ」について事例をたくさん調べておく。
10	個人研究課題の検討	「日本人の良さ」の事例、諸外国と比べての違いを協議する。 ＜準備学習＞日本人と諸外国と比較した具体的場面を調べておく。
11	個人研究課題の検討	「日本人の良さ」について、なぜ日本に根付いているのか、日本人の気質について協議する。 ＜準備学習＞「日本人の良さ」を維持する日本人の気質を調べておく。
12	個人研究課題の検討	「日本人の良さ」について、日本に根付いている歴史・文化的背景を協議する。 ＜準備学習＞「日本人の良さ」が維持できている歴史的背景等を調べておく。
13	卒業研究グループ編制	個人研究課題の決定。その内容に沿ったグループの編制、研究方法・分担を検討する。 (グループワーク)＜準備学習＞研究の方向性を考えておく。
14	卒業研究グループ編制	グループの研究課題を検討し、個人研究課題との関連を考察、課題を再検討する。個人研究の情報の共有。(グループワーク)＜準備学習＞個人研究内容をまとめておく。
15	中間発表	個人研究課題、グループ研究課題、今後の方向性等について、発表し合う。 ＜準備学習＞個人の研究についてまとめておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	高橋 淳一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

授業中適宜指示する。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。
 共同学習の重要性について説明できる。
 「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。
 SDGsの内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。
 卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《授業時間外学習》

授業で出された課題や自分の関心のあるテーマについての予備知識の学習など、自らの研究テーマを確立するための学習を自主的かつ積極的におこなうこと。これらの予習・復習を合わせて15時間の時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

レポート80%、ゼミナールへの参加状況20%とし、合計60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

課題や研究内容に関する質問に対しては授業中およびオンラインにて個別に対応する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	オンライン授業の内容や方法も含めて、高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。
2	SDGs について	SDGs の「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する。(時間外)[予習]SDGsについて調べる[復習]ノートをまとめる
3	SDGs について	上記の課題や問題点について現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、プロダクトを作成する。(時間外)[予習]SDGsの進捗状況を調べる[復習]ノート
4	SDGs について	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。(時間外)[予習]発表の準備[復習]他グループの発表内容をまとめる
5	ゼミの内容理解	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。(時間外)[予習]質問内容を考える[復習]発表準備
6	ゼミの内容理解	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。各ゼミが一同に集まり、全体発表 後に希望調査(時間外)[予習]発表準備[復習]発表内容のまとめ
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。(時間外)[予習]倫理規定に目を通す[復習]研究倫理の重要性についてまとめる
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。(時間外)[予習]研究テーマのキーワードを検索する[復習]卒業論文を読む
9	心理学の研究手法	心理学がどのように研究されているのか、その方法を理解する。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]改めて配布プリントの内容を確認する
10	心理学の研究手法	統計分析の理論と方法の基礎について理解する。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]配布された課題に取り組む
11	心理学の研究手法	心理統計のうち、t検定・分散分析・相関分析などを理解する。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]配布された課題に取り組む
12	研究テーマの検索	自らが関心のあるテーマから、研究テーマを抽出する。(時間外)[予習]テキストや抄録を読む[復習]配布された課題に取り組む
13	研究テーマの検索	抽出したテーマから、実際に卒業研究として取り組むテーマを絞り込む(時間外)[予習]配布プリントを作成する[復習]配布プリントを完成させる
14	文献検索法	CiNiiを使った文献検索の方法を身につける。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]実際に文献を検索しプリントアウトする
15	文献検索法	論文の参考文献リストからの文献検索法を理解する。(時間外)[予習]前回検索した文献の参考文献リストを確認する[復習]参考文献リストとCiNiiを使って文献を検索する

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。本ゼミでは、健康・幼児体育に関連する領域から取り組む。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。SDGsの目標の内容と、達成に向けた取組の意義を説明できる。卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実にを行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題には、都度、口頭やペーパーにて指導・助言を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする [準備学習] 入学前の学習を振り返る
2	SDGs について	SDGs の「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する [準備学習] 自身のSDGs への取組みについて考える
3	SDGs について	前時の課題や問題点について現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、プロダクトを作成する [準備学習] 発表テーマに関する資料を集める
4	SDGs について	前時に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む) [準備学習] 発表の準備をする
5	ゼミの内容理解	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する [準備学習] インタビュー内容を考える
6	ゼミの内容理解	前時に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む) 各ゼミが一同に集まり、全体発表 後に希望調査 [準備学習] 発表資料を作成する
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ [事前学習] 前年度の抄録集を読む
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する [事後学習] 興味のある卒業論文を要約する
9	情報を探し出す	情報の探索と収集について学ぶ [事前学習] 情報の収集の仕方について考える
10	情報の整理と分析	収集した資料の保管と整理について学ぶ [事前学習] SDGsの中で興味あるテーマに関する文献をプリントアウトする
11	研究テーマを探す	健康にかかわる事象について考える [事前学習] 前時の配布資料を読む
12	研究テーマを探す	健康にかかわる事象について考える [事後学習] 健康にかかわる事象の範囲を整理する
13	研究テーマを探す	幼児体育にかかわる事象について考える [事前学習] 前時の配布資料を読む
14	研究テーマを探す	幼児体育にかかわる事象について考える [事前学習] 幼児体育にかかわる事象の範囲を整理する
15	五峯祭に向けて	五峯祭参加に向けて、ゼミの活動(コーナー遊び)を考える [準備学習] コーナー遊びについて調べる

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「特別支援保育」に関連した研究テーマについて個人の興味関心によって文献を調べ、テーマが共通するメンバーで構成されるグループでのディスカッションを通して考察を深める。2年次での卒業研究論文執筆に向けて、自らが主体的に課題に向き合い、グループで取り組める研究活動を考え、研究会計画を立てる。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実にを行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び・高校までの違い	指定されたゼミで、高校までと大学の学びの違いについて、話し合う。 <準備学習> 大学で学びたいことを発表できるようにする。
2	SDGsの目標について	指定されたゼミで、SDGsの「17の目標」について調べ、問題や課題を抽出する。 <準備学習> SDGsについて調べる。
3	SDGsの改善策について	指定されたゼミで、SDGsの課題や改善策について話し合い、意見をまとめる。 <準備学習> SDGsの取組の背景について説明できるようにする。
4	SDGsについての発表	指定されたゼミで、作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 <準備学習> 大学ホームページで本学のSDGsの取組を調べる。
5	ゼミの内容理解	指定されたゼミの担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。 <準備学習> 卒業研究発表会のポスター資料を見ておく。
6	ゼミの内容についての全体発表	学年合同：作成したプロダクトについて学年全体で発表する(質疑・応答を含む)。 <準備学習> ゼミインタビューの結果を整理し発表の準備をする。
7	研究倫理について	学年合同：卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。 <準備学習> 「著作権」について調べ、卒業研究との関連を考える。
8	研究テーマの展望	決定したゼミで、特別支援保育に関連した研究テーマについての展望を学ぶ。 <事前学習> 大学図書館で卒業研究論文抄録のある場所を確認しておく。
9	文献の調べ方について	文献の調べ方について学び、自分の関心のある研究テーマについて調べる。 <準備学習> 「インクルーシブ保育」に関連する書籍や文献を読む。
10	文献のまとめ方について	自分の関心のある研究に関連する文献の要旨をまとめる。 <準備学習> 「コミュニケーション支援」について自分の関心のある文献を読む。
11	量的研究の方法について	アンケートなどの研究から得られた量的データのまとめ方について学ぶ。 <準備学習> 「発達障害」について自分の関心のある論文を読む。
12	質的研究の方法について	インタビューなどの研究から得られた質的データのまとめ方について学ぶ。 <準備学習> 「家族支援」について自分の関心のある論文を読む。
13	グループの構成について	自分の関心のある研究テーマについて、発表し、研究グループを構成する。 <準備学習> 自分の関心のある研究テーマについての発表準備をする
14	グループでの研究計画の作成について	グループの研究テーマを設定し、研究の進め方について話し合い、計画を作成する。 <準備学習> グループで取り組める研究活動についてのアイデアを考える。
15	研究の進め方について	1、2年合同：2年生の「特別支援保育ゼミ」を見学し、研究の進め方について学ぶ。 <準備学習> 自分の研究テーマに関して収集した情報を整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[5訂版]」
2021年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が求められるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につけること。また、毎回の授業の振り返りや次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、明確にする。 ＜準備学習＞大学の授業のイメージを発表できるようにする。
2	SDGsについて	SDGsの「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する。 ＜準備学習＞SDGsについて自分なりに調べておく。
3	SDGsについて	上記の課題や問題点について現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめする。 ＜準備学習＞SDGsの取組の背景について説明できるようにする。
4	SDGsについて	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 ＜準備学習＞大学ホームページで本学のSDGsの取組を知る。
5	ゼミの内容理解	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。 ＜準備学習＞卒業研究発表会のポスター資料を見ておく。
6	ゼミの内容理解	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 ＜準備学習＞ゼミインタビューの結果を整理し発表の準備をする。
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。 ＜準備学習＞「著作権」について調べ、卒業研究との関連を考える。
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。 ＜事前学習＞大学図書館で、卒業研究論文抄録のある書架の場所を確認しておく。
9	個人研究課題の検討	過去の論文抄録について調査し、本ゼミの研究課題について知る。 ＜準備学習＞本ゼミの研究領域に含まれる事柄について調べる。
10	個人研究課題の検討	SDGsの目標との関係に留意し、取り組んでみたい研究課題を複数検討する。 ＜準備学習＞SDGsについての学びの内容を、特に17種類の目標を中心に振り返っておく。
11	研究グループの検討	各々の研究課題の関連を考察し、研究グループを構成し、グループとしての研究課題を検討する。 ＜準備学習＞同じゼミ内の個人研究テーマを互いに情報共有しておく。
12	研究グループの設定	グループの研究課題に基づき、研究グループを設定して研究の進め方について話し合う。 ＜準備学習＞本ゼミの研究領域、SDGsの17の目標について振り返っておく。
13	調査・研究	文献・資料の検索 ＜準備学習＞「CiNii」について、その内容や活用の仕方について調べておく。
14	調査・研究	文献・資料の検索 ＜準備学習＞自分の研究テーマに関する情報をできるだけ多く収集する。
15	調査・研究	2年生の取組を見学し、研究資料収集のヒントを掴む。 ＜準備学習＞自分の研究テーマに関して収集した情報を整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。 SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実にを行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、明確にする。 ＜準備学習＞大学の授業のイメージを発表できるようにする。
2	SDGs について	SDGsの「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する。 ＜準備学習＞SDGsについて自分なりに調べておく。
3	SDGs について	上記の課題や問題点について現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめする。 ＜準備学習＞SDGsの取組の背景について説明できるようにする。
4	SDGs について	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 ＜準備学習＞大学ホームページで本学のSDGsの取組を知る。
5	ゼミの内容理解	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。 ＜準備学習＞卒業研究発表会のポスター資料を見ておく。
6	ゼミの内容理解	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 ＜準備学習＞ゼミインタビューの結果を整理し発表の準備をする。
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。 ＜準備学習＞「著作権」について調べ、卒業研究との関連を考える。
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。 ＜事前学習＞大学図書館で、卒業研究論文抄録のある書架の場所を確認しておく。
9	個人研究課題の検討	過去の論文抄録について調査し、「子どもの造形表現ゼミ」の研究課題について知る。 ＜準備学習＞「子どもの造形表現」という研究領域に含まれる事柄について調べる。
10	個人研究課題の検討	SDGsの目標との関係に留意し、取り組んでみたい研究課題を複数検討する。 ＜準備学習＞SDGsについての学びの内容を、特に17種類の目標中心に振り返っておく。
11	研究グループの検討	個人研究課題を元に、相互の関連を考察し、研究グループを構成し、グループ研究課題を検討する。 ＜準備学習＞同じゼミ内の個人研究テーマを互いに情報共有しておく。
12	研究グループの設定	グループ研究課題に基づき、研究グループを設定して進め方について話し合う。 ＜準備学習＞「子どもの造形表現」の研究領域、SDGsの17の目標について振り返っておく。
13	調査・研究	文献・資料の検索 ＜準備学習＞「CiNii」について、その内容や活用の仕方について調べておく。
14	調査・研究	文献・資料の検索 ＜準備学習＞自分の研究テーマに関する情報をできるだけ多く収集する。
15	調査・研究	2年生の「子どもの造形表現ゼミ」の取組を見学し、研究資料収集のヒントを掴む。 ＜準備学習＞自分の研究テーマに関して収集した情報を整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	越智 光輝				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。
 共同学習の重要性について説明できる。
 研究倫理を含め本学のゼミの内容を列挙できる。
 SDGsの目標・内容、その達成への意義を説明できる。
 卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
 2018年
 石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
 本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業中に学生の質問に対し口頭等により適宜行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違いや大学での学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。〔授業時間外学習〕大学の学びの整理(復習1時間)
2	SDGsについて	SDGsの「17の目標」について理解し、世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する。〔授業時間外学習〕HP等でSDGsに関する記事を調査(予習・復習1時間)
3	SDGsについて	上記の問題や課題の現状を調査し改善策を考え、調査内容や改善策によりプロダクトを作成する。〔授業時間外学習〕プロダクトに関する予備情報の調査(予習1時間)
4	SDGsについて	第4週に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。〔授業時間外学習〕各グループの発表内容についてまとめる。(復習1時間)
5	ゼミの内容理解	ゼミ担当者へのインタビュー内容に基づき、本学のゼミナールに関するプロダクトを作成する。〔授業時間外学習〕ゼミ担当者への質問事項をまとめる。(予習1時間)
6	ゼミの内容理解	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。〔授業時間外学習〕各グループの発表内容についてまとめる。(復習1時間)
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。〔授業時間外学習〕HP等で研究倫理に関する記事を調査(予習・復習1時間)
8	研究テーマの展望	選択した研究領域の過去の卒業論文を調査し研究テーマの概要を理解する。〔授業時間外学習〕図書館等で卒業研究論文に関する記事を調査(予習・復習1時間)
9	基礎練習	表現領域に関するレッスン(基礎)〔授業時間外学習〕第9週で練習した表現技法について反復練習をする。(予習・復習1時間)
10	応用練習	表現領域に関するレッスン(応用)〔授業時間外学習〕第10週で練習した表現技法について反復練習をする(予習・復習1時間)
11	即興的表現	第9・10回の学習内容を踏まえ、即興的な表現を試作する。〔授業時間外学習〕表現するテーマの試案、使用する用具など準備する(予習1時間)
12	テーマにもとづいた表現	表現しようとするテーマについて、作品として仕上げる。〔授業時間外学習〕作品練習(予習1時間)
13	小発表会のためのリハーサル	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
14	小発表会のためのリハーサル	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
15	作品小発表会	学習内容のまとめとして、ゼミ内で小発表会を行う。〔授業時間外学習〕自他のパフォーマンスを振り返り、課題などレポートにまとめる(復習1時間)。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	清水 誠				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、チュートリアル形式やゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。
 共同学習の重要性について説明できる。
 「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。
 ゼミナールに参加し、各領域の研究方法を説明できる。
 卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

研究レポート60%、卒業研究ルーブリック表に示された判定基準24%、学習履歴への記述内容16%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
 2018年
 石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
 本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

毎時間提出する学習履歴表への記述を通して行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学び	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて理解する。[準備学習]大学での学びとは何かを、調べまとめてくる。
2	SDGsについて	SDGsの「17の目標」について理解し、世界各国、地球規模で問題・課題を抽出する。[準備学習]SDGsの「17の目標」とは何か、どのような課題があるか調べてくる。
3	SDGsについて②	課題や問題点について、現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、成果物を作成する。[準備学習]前時に抽出した問題や課題について改善策を考える。
4	SDGsについて	前時に作成した成果物について発表し、議論する(質疑・応答を含む) [準備学習]前時に作成した成果物について発表できるようにする。
5	ゼミの内容理解	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、資料を作成する。[準備学習]本学のゼミナールについて、どのようなものがあるか調べる。
6	ゼミの内容理解②	各ゼミの研究領域や研究内容について発表する(質疑・応答を含む)。 [準備学習]前時に作成した発表資料に基づいた発表の練習をする。
7	研究倫理について	研究や論文作成における研究倫理について学ぶ。 [準備学習]研究倫理とは何か、文献等を調べてくる。
8	学習科学とは	学習科学研究について理解する。 [準備学習]研究倫理とは何か、文献等を調べてくる。
9	学習科学研究の事例	学習科学研究の事例を学ぶ [準備学習]学習科学の研究成果を調べてくる。
10	学習科学研究の事例②	学習科学研究の事例を学ぶ [準備学習]学習科学の研究成果を調べてくる。
11	研究テーマの展望	卒業研究のテーマについて、キーワードから過去の研究タイトルを調査し、自分の研究テーマを検討する。[準備学習]自分が研究をしたい内容と理由を検討してくる。
12	論文の検索方法の理解	論文検索の方法や引用文献の明記など、卒業論文作成時に必要とされる事柄について学ぶ。[準備学習]研究テーマについて検討する。
13	論文の検索と論文内容の整理	研究テーマに関係する論文を検索し、論文の成果をまとめる。 [準備学習]自分が研究してみたい内容を整理し、どのような論文を探すか検討する。
14	論文の講読	それぞれが調べた先行研究の研究手法や研究の成果を発表する。 [準備学習]自分が調べた先行研究をパワーポイント等に整理してくる。
15	論文の講読②	それぞれが調べた先行研究の研究手法や結果の成果を発表する。 [準備学習]自分が調べた先行研究をパワーポイント等に整理してくる。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	中平 浩介				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	ゼミ全体、及び個人・グループの取組について、後期の見通しを持つ。＜準備学習＞前期の学修内容を整理し、後期の課題を説明できるようにしておく。
2	調査・研究	作成している発表用スライドを完成させる。＜準備学習＞前回に作成したスライドを確認して内容を把握しておく。
3	個人レポートの作成	個人レポートの基本的な書式や項目を知り、各項目について下書きをする。＜準備学習＞自分の研究テーマについて、収集した情報を整理しておく。
4	個人レポートの作成	次回の「プレゼミ内中間発表」に向けて個人レポートを仕上げる。＜準備学習＞個人レポートの仕上げに向けて、下書きを完成させておく。
5	中間発表	個人研究課題について、調査結果をスライド発表する。＜準備学習＞これまで研究した内容をPowerPointスライドにまとめ、発表の準備をしておく。
6	中間発表	個人研究課題について、調査結果をスライド発表する。＜準備学習＞これまで研究した内容をPowerPointスライドにまとめ、発表の準備をしておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。（ゼミ・ゼミ 合同）＜準備学習＞昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 ＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 ＜準備学習＞どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭当日の取組 ＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ研究の作成	全体構成、執筆分担について話し合う。＜準備学習＞五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	グループ研究の作成	個人研究との関係に留意しながら、分担ごとに下書きを進める。＜準備学習＞個人研究との関係を考えながら、分担部分のポイントを整理しておく。
13	グループ研究の作成	グループ研究を仕上げ、発表用スライドを作成する。＜準備学習＞分担部分の下書きを仕上げしておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。（ゼミ・ゼミ 合同）＜準備学習＞各グループ、研究内容をPowerPointスライドまとめて発表の準備をする。
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。＜準備学習＞傾聴すべきポイントを自分なりに整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

前半（第1～7次）は全研究領域共通で、卒業研究論文の執筆に関する基礎的な知識を学ぶ。後半（第8～15次）は、表現の基本的技能を修得するための練習に取り組む。最終的には、他者と協働して表現発表会の作品に取り組み、表現技術を身につける。

《授業の到達目標》

表現に関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。イメージを豊にして、自らの発想を様々な方法を用いて表現することができる。本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような表現法を修得し、実践できる。担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。TEAMSの動画を活用して自らのパフォーマンスについて振り返り、総合表現の質向上を目標として自主練習を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	リハーサル(パート別/部分稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
2	リハーサル(パート別/通し稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
3	リハーサル(全体/部分)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
4	リハーサル(全体/通し稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
5	学外施設での発表(準備・撤収)	舞台設営(装置、照明、音響、客席、袖幕の設置・リハーサル、片づけ)〔準備学習〕外部施設に必要な備品を持ち出す準備および撤収(予習・復習1時間)
6	学外施設での発表(本番)	作品上演(本番)〔準備学習〕リハーサル内容など、本番を想定した通し稽古において得た課題や修正点を改善するよう取り組む(予習1時間)
7	実施報告の作成(活動の振り返り)	実施報告の構成検討〔準備学習〕これまで取り組んできた活動を映像や記録物で振り返り、整理する(復習1時間)
8	作品上演(準備)	舞台および客席の設営、音響の確認など〔準備学習〕リハーサル内容など、本番を想定した通し稽古において得た課題や修正点を改善するよう取り組む(復習1時間)
9	作品上演(リハーサル・本番)	舞台稽古(立ち位置、出入りの確認、音だしの確認、通し稽古、衣装・装置調整など)・本番〔準備学習〕これまでの学習を踏まえた課題や修正点の改善(復習1時間)
10	作品上演(撤収)	舞台および客席、袖幕、装置などの片づけ、〔準備学習〕片づけが円滑に行えるように担当係を決め、作業内容を確認する(予習1時間)
11	実施報告の作成(実施報告の構成)	実施報告の執筆〔準備学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する(予習・復習1時間)
12	実施報告の作成(実施報告の執筆)	実施報告の執筆〔準備学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する(予習・復習1時間)
13	作品発表に関する成果物の作成	ゼミで取り組んだ表現発表に関する成果物を作成する(動画、画像、展示物など)〔準備学習〕これまで取り組んできた表現発表を振り返り、整理する(復習1時間)
14	ゼミ内研究発表	前次で作成した成果物を用いてスモールグループプレゼンテーションを行う〔準備学習〕各グループの発表内容について講評する(復習1時間)
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。〔準備学習〕他グループの研究内容を把握する。発表会後の振り返り(予習・復習1時間)

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

表現に関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。イメージを豊にして、自らの発想を様々な方法を用いて表現することができる。本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような表現法を修得し、実践できる。担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実にを行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	リハーサル(パート別/部分稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
2	リハーサル(パート別/通し稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
3	リハーサル(全体/部分)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
4	リハーサル(全体/通し稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
5	学外施設での発表(準備・撤収)	舞台設営(装置、照明、音響、客席、袖幕の設置・リハーサル、片づけ)〔授業時間外学習〕外部施設に必要な備品を持ち出す準備および撤収(予習・復習1時間)
6	学外施設での発表(本番)	作品上演(本番)〔授業時間外学習〕リハーサル内容など、本番を想定した通し稽古において得た課題や修正点を改善するよう取り組む(予習1時間)
7	作品上演のための準備および本番	・舞台設営(装置、照明、音響、客席、袖幕の設置・片づけ) (予習1時間)
8	作品上演のための準備および本番	・舞台稽古(立ち位置、出入りの確認、音だしの確認、通し稽古、衣装・装置調整など) ・ポスター作成、当日のPR活動各種(予習1時間)
9	作品上演のための準備および本番	・作品上演(本番)〔授業時間外学習〕リハーサル内容など、本番を想定した通し稽古において得た課題や修正点を改善するよう取り組む(予習1時間)
10	実施報告の作成(活動の振り返り)	実施報告の構成検討〔授業時間外学習〕これまで取り組んできた活動を映像や記録物で振り返り、整理する(復習1時間)
11	実施報告の作成(実施報告の構成)	実施報告の執筆〔授業時間外学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する(予習・復習1時間)
12	実施報告の作成(実施報告の執筆)	実施報告の執筆〔授業時間外学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する(予習・復習1時間)
13	作品発表に関する成果物の作成	これまで取り組んだ表現発表に関する成果物の作成(動画、画像、展示物等)〔授業時間外学習〕これまで取り組んできた表現発表を振り返り、整理する(復習1時間)
14	ゼミ内研究発表	前次で作成した成果物を用いてスモールグループプレゼンテーションを行う〔授業時間外学習〕各グループの発表内容について講評する(復習1時間)
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。〔授業時間外学習〕他グループの研究内容を把握する。発表会後の振り返り(予習・復習1時間)

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実にを行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	ゼミ全体、及び個人・グループの取組について、後期の見通しを持つ。＜準備学習＞前期の学修内容を整理し、後期の課題を説明できるようにしておく。
2	調査・研究	これまでに収集した資料を整理し、個人論文作成の準備をする。＜準備学習＞実際の卒業研究の個人論文について、項目や内容を調べておく。
3	個人論文の作成	個人論文の基本的な書式や項目を知り、各項目について下書きをする。＜準備学習＞自分の研究テーマについて、収集した地産情報を整理しておく。
4	個人論文の作成	次回の「プレゼミ内中間発表」に向けて個人論文を仕上げる。＜準備学習＞個人論文の仕上げに向けて、下書きを完成させておく。
5	中間発表	個人研究課題について、調査結果を発表し合う。＜準備学習＞これまで研究した内容をA4サイズの用紙1枚にまとめ、発表の準備をしておく。
6	グループ論文の検討	グループごとに個人研究を踏まえたグループ論文の構成や内容について検討する。＜準備学習＞グループ内で、個人研究の内容に関する情報を共有しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	「教育ゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。（ゼミ・ゼミ 合同）＜準備学習＞昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備	「教育ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 ＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備	「教育ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 ＜準備学習＞どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「教育ゼミ」としての五峯祭当日の取組＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ論文の作成	全体構成、執筆分担について話し合う。＜準備学習＞五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	グループ論文の作成	個人研究との関係に留意しながら、分担ごとに下書きを進める。＜準備学習＞個人研究との関係を考えながら、分担部分のポイントを整理しておく。
13	グループ論文の作成	グループ論文を仕上げ、発表資料を作成する。＜準備学習＞分担部分の下書きを仕上げておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。（ゼミ・ゼミ 合同）＜準備学習＞各グループ、研究内容をA4サイズの用紙1枚にまとめてハぴょおうの準備をする。
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。＜準備学習＞傾聴すべきポイントを自分なりに整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	武内 道郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。
 共同学習の重要性について説明できる。
 「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。
 SDGsの内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。
 卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
 2018年
 石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
 本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実にを行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	グループ内で研究の進捗状況を互いに報告し、分担・課題を再検討する。(グループワーク) <準備学習> 個人研究の内容をまとめておく。
2	個人研究	「日本人の良さ」のデータ上の根拠、エビデンスについて協議する。 <準備学習> 「日本人の良さ」の根拠を調べておく。
3	グループ協議	「日本人の良さ」のデータ上の根拠、エビデンスについてグループ内で協議する。(グループワーク) <準備学習> 個人で調べたことをまとめておく。
4	個人研究	ペリー就学前教育など、幼児期の教育の大切さについて協議する。 <準備学習> ペリー就学前教育について調べておく。
5	個人研究	幼児期における非認知能力の大切さについて協議する。 <準備学習> 非認知能力について調べておく。
6	五峯祭の取組内容の検討	「幼児教育ゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。(ゼミ・ゼミ合同) <準備学習> 昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	「幼児教育ゼミ」としての五峯祭の取組について、分担に沿って準備をする。(ゼミ・ゼミ合同) <準備学習> 準備に必要なことを考えておく。
8	五峯祭準備	「幼児教育ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 <準備学習> 取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備	「幼児教育ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 <準備学習> どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「幼児教育ゼミ」としての五峯祭当日の取組 <準備学習> 五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	個人研究	新生児模倣、ごっこ遊びの大切さについて協議する。 <準備学習> 新生児模倣について調べておく。
12	個人研究	幼児期の運動習慣の大切さについて協議する。 <準備学習> 幼児期の運動習慣について調べておく。
13	グループ協議	グループの研究課題を検討し、個人研究課題との関連の考察、課題の再検討。個人研究テーマの情報共有。(グループワーク) <準備学習> 個人研究の内容をまとめておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。(ゼミ・ゼミ合同) <準備学習> 発表原稿の準備。
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。 <準備学習> 傾聴すべきポイントを自分なりに整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	高橋 淳一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態を取り入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

授業中適宜指示する。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。
共同学習の重要性について説明できる。
「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。
SDGsの内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。
卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《授業時間外学習》

授業で出された課題や自分の関心のあるテーマについての予備知識の学習など、自らの研究テーマを確立するための学習を自主的かつ積極的におこなうこと。これらの予習・復習を合わせて15時間の時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

レポート80%、ゼミナールへの参加状況20%とし、合計60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

課題や研究内容に関する質問に対しては授業中およびオンラインにて個別に対応する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文展望	検索した論文をまとめ、その内容を発表する。(時間外)[予習]発表準備[復習]質問された内容の確認
2	研究テーマの決定	これまで検索した文献等から、卒業研究のテーマを決定する。(時間外)[予習]これまでの文献を再確認する[復習]研究テーマに関係する論文を読む
3	先行研究の検索	決定した研究テーマに関係する文献を検索し、読んでまとめる。(時間外)[予習]文献検索法を復習する[復習]検索した文献をまとめる
4	先行研究の検索	さらに文献を検索し、先行研究を収集する。(時間外)[予習]検索した文献の参考文献リストを確認する[復習]検索した文献をまとめる
5	先行研究の検索	さらに文献を検索し、先行研究を収集する。(時間外)[予習]検索した文献の参考文献リストを確認する[復習]検索した文献をまとめる
6	データ収集の準備	検索した先行研究から、データ収集の方法を決定する。(時間外)[予習]検索した文献からデータ収集の方法を抽出する[復習]先行研究からデータ収集方法を確認する
7	データ収集の準備	実際にデータ収集ができるように質問紙を準備する。(時間外)[予習]先行研究を確認する[復習]データ収集の準備を確認する
8	データ収集の準備	五峯祭の幼児絵画展においてデータ収集ができるように準備する。(時間外)[予習]質問紙を確認する[復習]先行研究を確認する
9	データ収集の準備	五峯祭の幼児絵画展においてデータ収集ができるように準備する。(時間外)[予習]質問紙を確認する[復習]先行研究を確認する
10	データの収集	五峯祭の幼児絵画展において質問紙によるデータの収集を行う。(時間外)[予習]先行研究を確認する[復習]データ収集の方法に対する反省を行う
11	データのとりまとめ	収集したデータを分析ができるように加工する。(時間外)[予習]Excelの使い方を復習する[復習]データの加工方法を確認する
12	データのとりまとめ	収集したデータを分析ができるように加工する。(時間外)[予習]Excelの使い方を復習する[復習]データの加工方法を確認する
13	データの分析	加工したデータを統計分析する。(時間外)[予習]心理統計を復習する[復習]分析結果の読み方を復習する
14	データの分析	加工したデータを統計分析する。(時間外)[予習]心理統計を復習する[復習]分析結果の読み方を復習する
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会へ参加し、興味がある研究領域についてその内容を理解する。(時間外)[予習]自分の研究テーマを確認する[復習]発表内容をまとめる

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。本ゼミでは、健康・幼児体育に関連する領域から取り組む。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。 SDGsの目標の内容と、達成に向けた取組の意義を説明できる。 卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題には、都度、口頭やペーパーにて指導・助言を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究テーマを探す	文献をまとめる [事前学習] 興味のあるテーマについて文献を調べる
2	研究テーマを探す	文献をまとめる [事前学習] 興味のあるテーマについて文献を調べる
3	研究の進め方	興味あるテーマの研究方法を整理する [事前学習] 興味あるテーマの先行研究を集める
4	研究の進め方	整理した研究方法を発表し、多様な研究方法について学ぶ [事前学習] 発表に向けて、調べた研究方法についてまとめる
5	研究の進め方	興味あるテーマについて、アウトラインを作成する [事前学習] 興味あるテーマに関する文献・資料を整理する
6	研究の進め方	アウトラインにそって、資料を整理する [事後学習] レポートにまとめる
7	五峯祭に向けて	コーナー遊びにおける安全配慮について考える [事前学習] 幼児期の安全配慮について調べる
8	五峯祭の準備	コーナー遊びの準備をする [事前学習] コーナー遊びに必要なものを準備する
9	五峯祭の準備	コーナー遊びの準備をする [事前学習] コーナー遊びに必要なものを準備する
10	五峯祭	来場者の活動を援助する [事後学習] 五峯祭での活動を振り返り、学びをまとめる
11	次年度に向けての準備	研究の方向性を検討する [事前準備] これまで集めた資料を整理する
12	次年度に向けての準備	研究テーマを検討する [事前準備] これまで集めた資料を整理する
13	次年度に向けての準備	研究テーマを焦点化し、研究方法を考える [事前準備] これまで集めた資料を整理する
14	次年度に向けての準備	次年度の研究計画を考える [事前準備] これまで集めた資料を整理する
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。 [事後学習] 発表会から得た学びをまとめる

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

前期で作成したグループ研究計画にそって、研究活動をすすめる、個人での研究テーマに沿った研究報告レポートを作成する。2年次の卒業研究論文およびグループでの研究発表に向けて、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。

《授業の到達目標》

自分の関心のある研究テーマにそって文献を調べ、まとめることができる。グループでのディスカッションなどを通して、共通するテーマにそった研究活動をすすめることができる。研究目的、方法などを含めた研究計画書を作成し、調査などを行うことができる。卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問をおこなうことができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	ゼミ全体、及び個人・グループの取組について、後期の見通しを持つ。 <準備学習>前期の学修内容を整理し、後期の課題を説明できるようにしておく。
2	グループ研究の情報収集	グループでの研究活動計画にそって必要な情報を収集する。 <準備学習>インクルーシブ保育との関連について考えながら情報収集する。
3	グループ研究の目的について	グループ研究の目的について、パワーポイントにまとめる。 <準備学習>個々の研究テーマとの関連を整理し、パワーポイントにまとめる。
4	グループ研究の方法について	グループ研究の方法について、パワーポイントにまとめる。 <準備学習>研究に必要な物品を準備する。
5	グループ研究の結果の示し方について	グループ研究の結果の示し方について、パワーポイントにまとめる。 <準備学習>これまで研究した内容をパワーポイントにまとめる。
6	グループ研究の結果の考察方法について	結果の考察方法を検討する。研究成果物の公開についての資料を作成する。 <準備学習>グループ内で、個人研究の内容に関する情報を共有しておく。
7	研究成果物の公開について	1、2年合同：「特別支援保育ゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。<準備学習>それぞれの学年で展示できる内容をまとめておく。
8	研究成果物の作成 (五峯祭準備1日目)	「特別支援保育ゼミ」の活動内容を五峯祭で展示する成果物を作成する。 <準備学習>取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	研究成果物の展示 (五峯祭準備2日目)	「特別支援保育ゼミ」の活動内容を五峯祭で展示する成果物を展示する。 <準備学習>どのような役割が必要になるか、分担する人数等を考えておく。
10	研究成果物の公開 (五峯祭当日)	「特別支援保育ゼミ」の活動内容を五峯祭で展示する <準備学習>分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ研究活動の振り返り	五峯祭での研究成果物の公開について振り返りディスカッションする。 <準備学習>インクルーシブ保育の理念を軸に活動の結果を整理しておく。
12	個人研究との関係性について	個人研究およびグループ研究活動についての中間報告としてレポートを書く。 <準備学習>インクルーシブ保育の理念と個人研究との関係性を考え整理する。
13	研究報告レポートの作成	1年次の研究報告レポートを作成する。 <準備学習>インクルーシブ保育の理念を念頭に置きながら下書きを仕上げしておく。
14	ゼミ内研究発表	1、2年合同：2年生の発表を聞いて、意見や質問をする。 <準備学習>2年生の発表資料を読んでおく。
15	卒業研究発表会	1、2年合同：卒業研究発表会に参加し、興味がある研究について意見をまとめる。 <準備学習>傾聴すべきポイントを自分なりに整理しておく。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身に着ける。調査のために実践現場を見学したり、関係者に聞き取りをしたりするなど、研究を自主的にすすめていく必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[5訂版]」
2021年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実にを行うこと。本授業では、探究心が求められるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につけること。また、毎回の授業の振り返りや次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	ゼミ全体、及び個人・グループの取組について、後期の見通しを持つ。＜準備学習＞前期の学修内容を整理し、後期の課題を説明できるようにしておく。
2	調査・研究	これまでに収集した資料を整理し、個人論文作成の準備をする。＜準備学習＞実際の卒業研究の個人論文について、項目や内容を調べておく。
3	個人論文の作成	個人論文の基本的な書式や項目を知り、各項目について下書きをする。＜準備学習＞自分の研究テーマについて、収集した情報を整理しておく。
4	個人論文の作成	次回の「プレゼミ内中間発表」に向けて個人論文を仕上げる。＜準備学習＞個人論文の仕上げに向けて、下書きを完成させておく。
5	中間発表	個人研究課題について、調査結果を発表し合う。＜準備学習＞発表資料を作成し、発表の準備をしておく。
6	グループ論文の検討	グループごとに、各自の個人研究を踏まえたグループ論文の構成や内容について検討する。＜準備学習＞グループ内で、個人研究の内容に関する情報を共有しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	本ゼミとしての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。（2年生ゼミと合同）＜準備学習＞昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備	五峯祭の取組に向けた準備 ＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備	五峯祭の取組に向けた準備 ＜準備学習＞どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	五峯祭当日の取組＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ論文の作成	全体構成、執筆分担について話し合う。＜準備学習＞五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	グループ論文の作成	個人研究との関係に留意しながら、分担ごとに下書きを進める。＜準備学習＞個人研究との関係を考えながら、分担部分のポイントを整理しておく。
13	グループ論文の作成	グループ論文を仕上げ、発表資料を作成する。＜準備学習＞分担部分の下書きを仕上げておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う（2年生ゼミと合同）。＜準備学習＞グループごとに発表用資料を作成し、発表の準備をする。
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。＜準備学習＞傾聴すべきポイントを自分なりに整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。 共同学習の重要性について説明できる。「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実にを行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	ゼミ全体、及び個人・グループの取組について、後期の見通しを持つ。＜準備学習＞前期の学修内容を整理し、後期の課題を説明できるようにしておく。
2	調査・研究	これまでに収集した資料を整理し、個人論文作成の準備をする。＜準備学習＞実際の卒業研究の個人論文について、項目や内容を調べておく。
3	個人論文の作成	個人論文の基本的な書式や項目を知り、各項目について下書きをする。＜準備学習＞自分の研究テーマについて、収集した地産情報を整理しておく。
4	個人論文の作成	次回の「プレゼミ内中間発表」に向けて個人論文を仕上げる。＜準備学習＞個人論文の仕上げに向けて、下書きを完成させておく。
5	中間発表	個人研究課題について、調査結果を発表し合う。＜準備学習＞これまで研究した内容をA4サイズの用紙1枚にまとめ、発表の準備をしておく。
6	グループ論文の検討	グループごとに個人研究を踏まえたグループ論文の構成や内容について検討する。＜準備学習＞グループ内で、個人研究の内容に関する情報を共有しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	全体構成、執筆分担について話し合う。＜準備学習＞五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
8	五峯祭準備	「子どもの造形表現ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 ＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備	「子どもの造形表現ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 ＜準備学習＞どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「子どもの造形表現ゼミ」としての五峯祭当日の取組＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ論文の作成	全体構成、執筆分担について話し合う。＜準備学習＞五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	グループ論文の作成	個人研究との関係に留意しながら、分担ごとに下書きを進める。＜準備学習＞個人研究との関係を考えながら、分担部分のポイントを整理しておく。
13	グループ論文の作成	グループ論文を仕上げ、発表資料を作成する。＜準備学習＞分担部分の下書きを仕上げておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。(ゼミ・ゼミ 合同)＜準備学習＞各グループ、研究内容をA4サイズの用紙1枚にまとめてハぴょおうの準備をする。
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。＜準備学習＞傾聴すべきポイントを自分なりに整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	越智 光輝				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとり入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

大学での学修の特徴について説明できる。
 共同学習の重要性について説明できる。
 研究倫理を含め本学のゼミの内容を列挙できる。
 SDGsの目標・内容、その達成への意義を説明できる。
 卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」
 2018年
 石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
 本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業中に学生の質問に対し口頭等により適宜行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	リハーサル(パート別/部分稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。(予習・復習1時間)
2	リハーサル(パート別/通し稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。(予習・復習1時間)
3	リハーサル(全体/部分)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。(予習・復習1時間)
4	リハーサル(全体/通し稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。(予習・復習1時間)
5	学外施設での発表(準備・撤収)	舞台設営(装置、照明、音響、客席、袖幕の設置・リハーサル、片づけ)〔授業時間外学習〕外部施設に必要な備品を持ち出す準備および撤収(予習・復習1時間)
6	学外施設での発表(本番)	作品上演(本番)〔授業時間外学習〕リハーサル内容など、本番を想定した通し稽古において得た課題や修正点を改善するよう取り組む。(予習1時間)
7	作品上演のための準備および本番	上演に向けての舞台設営(装置、照明、音響、客席、袖幕の設置・片づけ)〔授業時間外学習〕本番に向けての練習での課題点の改善(予習・復習1時間)
8	作品上演のための準備および本番	上演に向けての立ち位置や出入り等の確認と衣装・装置の調整〔授業時間外学習〕本番に向けての練習での課題点の改善(予習・復習1時間)
9	作品上演のための準備および本番	作品上演(本番)〔授業時間外学習〕必要備品、舞台設備等の撤収(復習1時間)
10	実施報告の作成(活動の振り返り)	実施報告の構成検討〔授業時間外学習〕これまで取り組んできた活動を映像や記録物で振り返り、整理する。(復習1時間)
11	実施報告の作成(実施報告の構成)	実施報告の執筆〔授業時間外学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する。(予習・復習1時間)
12	実施報告の作成(実施報告の執筆)	実施報告の執筆〔授業時間外学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する。(予習・復習1時間)
13	作品発表に関する成果物の作成	これまでゼミで取り組んだ表現発表に関する成果物を作成する(動画、画像、展示物など)。〔授業時間外学習〕これまでの表現発表の整理(復習1時間)
14	ゼミ内研究発表	前次で作成した成果物を用いてスモールグループプレゼンテーションを行う。〔授業時間外学習〕各グループの発表内容について講評する。(復習1時間)
15	卒業研究発表会	興味がある研究領域について研究内容を理解する。〔授業時間外学習〕他グループの研究内容を把握する。発表会後の振り返り(予習・復習1時間)

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	清水 誠				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、チュートリアル形式やゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

- ・大島純・千代西尾祐司編集「学習科学ガイドブック」北大路書房、2019年
- ・石黒圭「論文・レポートの基本」日本実業出版社、2024年
- ・本学卒業研究論文抄録集

《授業の到達目標》

- 研究することの魅力について説明できる。
- 協同学習の重要性について説明できる。
- 「研究」とは何か、説明できる。
- 研究方法を説明できる。
- 卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実にを行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要です。

《成績評価の方法》

個人論文60%、卒業研究ルーブリック表に示された判定基準24%、学習履歴への記述内容16%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

毎時間提出する学習履歴表への記述を通して行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究動機・目的の整理	ゼミで取り組みたい自身の研究動機・目的について整理する。 [準備学習]前期卒業研究ゼミ で学んだ研究動機・目的を整理してくる。
2	研究仮説の設定	研究目的に沿い、研究仮説を設定する。 [準備学習]研究仮説とは何か。どのように設定するかを調べてくる。
3	SDGsとグループ研究テーマの模索	SDGs推進に向けたグループ研究テーマについて検討するための発表会。 [準備学習]各自の研究動機・目的・仮説を発表するための準備をしてくる。
4	SDGsとグループ研究テーマの模索②	SDGs推進に向けたグループ研究テーマについて検討するための発表会②。 [準備学習]各自の研究動機・目的・仮説を発表するための準備をしてくる。
5	グループ研究テーマの設定	SDGs推進に向けたグループ研究テーマをグループ討論を通して設定する。 [準備学習]SDGsを踏まえ、研究動機・目的・仮説を設定するための準備をしてくる。
6	文献調査に向けた取組	グループ研究を踏まえた個人研究の文献調査を行う。 [準備学習]文献調査を行い成果を整理する。
7	文献調査に向けた取組②	グループ研究を踏まえた個人研究の文献調査を行う。 [準備学習]文献調査を行い成果を整理する。
8	学びを育む教材の開発	グループに分かれ、教材の開発と検討を進める。 [準備学習]五峯祭に向けた教材の検討をしてくる。
9	学びを育む教材の準備	グループに分かれ、検討された教材の作成・準備を進める。 [準備学習]検討された教材の活用方法について考えてくる
10	学びを育む教材の発表	グループに分かれ、検討された教材の発表と成果をまとめる。 [準備学習]発表の確認と活動の成果を考えてくる。
11	個人研究の調査方法の立案	研究経過の報告を踏まえ、個人研究の調査方法の計画と立案をする。 [準備学習]個人研究の調査方法を検討してくる。
12	個人研究の調査	個人研究の調査を進める。 [準備学習]個人研究の調査方法と整理について検討してくる。
13	個人研究の結果の整理	調査から得られた結果を整理し、図・表にまとめ論文作成の準備をする。 [準備学習]個人研究の調査方法と整理について検討してくる。
14	個人論文の作成	個人論文を作成する。 [準備学習]個人論文発表に向け整理をしてくる。
15	卒業研究発表会への参加	卒業研究発表会に参加し、各ゼミナールの研究成果を理解し、来年度の卒業研究の取組に向けて積極的に質疑する。[準備学習]卒業研究抄録を読んでくる。